

8 明治5年2月10日 菊池長閑宛

(長閑注記)

先月下旬花輪より金子五両入ノ御書状相達拝見仕候皆々様御無異
ニテ御迎陽之由何寄之事と存居候次ニ私無事勤学罷在候間御安
意被下度候花輪も本私共居候三嶋屋ニ寄留ニて罷越委細御様子
承候同人エ委細ニ書状認差上不申と御伝言有之候由ニ候得共何
も外御知セ申ニ残事も無之と存居候併猶委細取調て左ニ申上候
月俸四両壹分武朱并炭代是ハ前月遣候丈翌月調人數ニ割付申候
先月半月分ニテ壹分壹朱ト何程ニ御座候規則書ニ五両と有候と
食料斗と存候所炭代共ニ御座候尙則ハ前より頓と嚴ニテ門限ハ五
字半ニ御座候且食事ハ朝ハ玉子二ツ飯一合昼はスープと申汁と
牛肉飯ハ同前夜ハ日本菜ニテ何か肴并飯一合半ニ候得ハ休日ニ
ても卜店抔致候者さへ少く勿論登樓等ハ決而無之候散歩時間ハ
三字半より五字はん迄ニ候得(抹消)〔共〕は日本橋迄丈戻ニテ丁度宜候
稽古等ハ余程宜候朝九字より三字半迄ニテ只十二時より一字半迄昼
食之間休候而己ニ御座候第一之部抔は課業余程嚴重十分下謹仕
候ニハ暁七ツ時迄懸り候由總て此度之課業ニ暗誦ハ多候故隨分
不勉強ニ居れ不申候此間元阿州名東県露木徳五郎と申人当十六
歳ニテ第一ノ部之甲即一番座ニ始終居且勉強非常ニ付日本地図

洋臨時賞典として下賜候実ニ天下ノ大学校ニて第一之書生故知
も不知も露木こそと賞嘆之声校中ニ満候當人の面目且感服之至
ニ候併惜哉肺ハ甚く損当節専ら療養致居候中々容易ニ回復ニ
至兼へくと申事ニ候之を見聞之人々奮激不致を不得事ニ候東京
中学校之多事人力と並馳之勢ニテ女学校も此度御開ニ相成候又
斎藤三助之妻も女学校を開候皆何も洋学ニ候南校ハ構内非常ニ
広相成近辺之屋舗四五ヶ所皆取挙ニ相成候丁度向ハ運動場ニ拵
居候雑誌三冊下し上候間御一覽奉願上候横田より中原への書状參
候得共當人下候故届兼候間御序之節御返被下度奉願上候先達而
も申上候通月俸之義ハ七円なれハ必不足ニ無之候間決て深く御
心配被下間敷候且此頃二季分ニても四季分ニても収候て宜相成
候得ハ御都合ニ因てハ一度ニ御取被下候ても宜御座候花輪ニて
も左様致候風ニ御座候盛岡県之様子承候得ハ愈御迷惑ニ不相成
様成業致度心而已急候何卒奮激致成業可仕候頓首

二月十日

御尊父様

御座下

香一郎拝

(長閑注記)
〔三月一日達 返し三月十三日附川村エ頼金二十両遣し〕